

## 令和7年度第3回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

1 会議名 令和7年度第3回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議

2 開催日時 令和7年9月18日（木）午前10時から午前11時30分まで

3 開催場所 一関市役所 3階 特別会議室

4 出席者

(1) 委員 押切浩実委員、熊谷道仁委員、佐藤崇史委員、下川理英委員、  
千田光柳委員、福家和史委員、藤澤大我委員、堀籠義裕委員、  
山崎裕也委員

※欠席者 兼平俊亮委員、熊谷志江委員、河野麻希子委員、鈴木直子委員、  
中島元子委員、野村勉委員、橋本華恵委員

(2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、  
小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、  
佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、  
谷藤義拓政策企画課主任主事

5 議題

(1) 第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略における数値目標の令和6年度末時点の状況について

(2) 次期総合計画前期基本計画（案）について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 なし

8 審議内容

(1) 第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略における数値目標の令和6年度末時点の状況について

(2) 次期総合計画前期基本計画（案）について

関連議題のため、事務局から資料No.1～3-3により一括で説明を行った。以下、  
質疑応答等。

座長 本日は主に資料No.3-2について意見をいただきたい。

資料No.3-2の10ページ「将来展望人口」について、3つ挙げているものを  
1つにしたということだが、人口に関する数値指標の目標値や考え方と整合  
は取れているか。

事務局 前期基本計画において設定する評価指標については、将来展望人口と直接的、  
間接的に関係するものがあるが、いずれも将来展望人口を踏まえた目標値の設

定を予定している。

座長 このような計画は関連する情報が全体に散りばめられることになるため、用いている情報がばらつきなく統一的なものとなるよう、配意してもらいたい。

委員 資料No.3-2の5ページ「一関ってこんなまち！」のアクセスの項目に、東京駅まで最短1時間53分とあり、非常にインパクトがあるものの、この所要時間の新幹線は1日に1本のみである。偽りではないものの、実際には2時間ちょっとという表現の方が現実的である。

13ページ「重点プロジェクト」の重点2「ILCの実現を見据えたまちづくり」について、参考資料No.1のとおりパブリックコメントでも厳しいコメントが寄せられている。国際的にも経済的にも難しい状況と承知しているが、実現した場合は他の重点プロジェクトなどにも大きく影響するものである。現在の計画からの記載内容の違いや、市の具体的な取組の予定はどうなっているか。

事務局 「一関ってこんなまち！」のページは、次期計画で新たに設けるものであり、一関市総合計画審議会において、他自治体と比較した一関市の魅力、特徴などをまとめ、計画書の中で市の魅力を示していきたいという意見が出されたことから設けたもの。この趣旨から、最短の時間の記載とした。

事務局 ILCについては、現計画で「ILCを基軸としたまちづくり」となっているものを「実現を見据えた」という表現とした。ILCに係る状況は厳しく、消極的な意見も多いが、市では、関係自治体などとILC実現建設地域期成同盟会を組織し、ILCの日本への誘致に関する活動を行っている。ILCの実現を要望し、実現を見据えて準備をするという基本的な姿勢は、これまでの計画と変わらない。

委員 19ページ「こどもの学びの環境づくり」の中で「学校運営支援協議会」とあるが、市の小中学校における会の名称であり、一般的な学校運営協議会という表現が望ましいと思う。

委員 9ページ「多様な働き方が実現するまち」の評価指標「市内給与所得者率」について、内容のイメージが伝わりにくい。また、34.7%という数字が一般的に高いか低いかも分からない。世間一般において分かりやすい数字の指標とし、市民の方も一緒に一関市の状況を考えられる指標とする考え方もあると思われる。国税庁の統計などを参考にしてはどうか。

5ページ「一関ってこんなまち！」は分かりやすくてよいと思った。特色のある地元商品や農産物などの記載があってもよいと思う。

事務局 市内給与所得者率については、他自治体との比較ではなく、市の中での変化

を見る指標として考えたもの。ご指摘のとおり、一関市の状況が分かりやすい指標を設定できないか再考する。

座長 この指標以外にも、分子はイメージできるが分母が分からないという指標が散見される。指標については、他自治体と比較してどうかという相場感など、この数字にどういう意味があるかという視点での見直しが必要と感じた。

委員 5ページ「一関ってこんなまち！」に関し、他にも載せたいイベント、特色のあるイベントは多くある。

19ページ「こどもの学びの環境づくり」に「一関で学ぶことの魅力の効果的な発信」「一関だからこそその学び」とあるが、良い表現である。一関市には幼稚園から支援学校、短大、工業高等専門学校まで、学校が揃っており、県内では一関だけである。また、在来線と新幹線の駅が同じであり、新幹線で通学もできる。図書館は県立図書館と比較しても広く、自習室が充実している。ないのはレジャー施設だけで、オックスフォードやケンブリッジのように学園都市的なものを作る素材、要素がある。この部分を深めてほしい。

座長 5ページの「一関ってこんなまち！」に市外から市内への通勤通学者数が記載されているが、計画本編の中で通勤と通学を別の区分・ストーリーでまとめているため、5ページのデータは通勤と通学に分けて記載したほうがよい。このデータは前の「まちづくりの考え方」や後ろの施策個別ページに連動するものでもあり、施策個別ページで力を入れたい部分とその現状など、全体を見たときにデータが結びつくような見せ方に整理、工夫してほしい。

事務局 「一関ってこんなまち！」は、国の指定文化財など、第三者から認定づけられたものであることを掲載基準とした。行政がまとめるもののため、特定の企業の商品などは掲載が難しい。

座長 9ページ「しごとの可能性が広がるまち」の指標「市外から市内への通勤者数」については、取組の方向性が市外の人向けで、以前から住んでいる人に向けた仕事の可能性を広げるといった視点が見えないと感じる人が出る可能性がある。市内から流出している労働力を減らしたいという考えだと思うが、市内に住んでいる人の仕事の可能性を広げる視点もどこかではっきり示すことが必要である。

委員 待機児童ゼロなど、市の取組が成功した例などを載せることもよいのでは。移住してくる人はそういった情報に魅力を感じると思う。

座長 市民の計画でもあるため、まちそのものやまちづくりに関心を持ってもらうための材料を、中に埋め込む工夫が必要。

委員 面積・土地利用の棒グラフが、山林原野が60%、その他が18%と、にぎわいのまちを目指しているにもかかわらず、見え方として非常に印象が悪い。自然が豊かという方向に見せるにしても、表現など工夫が必要。

委員 一関市に来たいと思わせるためには、この土地利用のデータは必要か。

委員 この計画のターゲットは誰かを意識すると、もう少し方向性が明確な資料になるのでは。総合戦略であるから、外の人に一関市に来てもらい、市内に住んでいる人にはここに暮らし続けてほしいという内容の資料にする必要がある。また、ベッドタウン的に、住み続けてもらいながら仕事は市外に行ってもよいという組立てであれば、そのような内容の資料とすればよい。ターゲットとストーリー性の整理がほしい。

座長 次期計画である資料No.3-2は、基本的に総合計画であり、広い分野のまちづくりについて記載がなされるものであるが、総合戦略は総合計画の中でどこに力を入れていくかをまとめたものである。この部分を整理し、見せ方を工夫すると、見た人は理解しやすいと思う。

事務局 総合計画は市民が作る市民の計画であり、市民の方に見ていただき、一緒にこの方向性で努力していきましょうというものである。この中の「総合戦略」は人口減少の抑制を柱にしたものである。「一関ってこんなまち！」を含めて一関市はこういうまちという資料であり、目指すものを共有するイメージでまとめたものである。

座長 市民の方に市の魅力を再確認、再発見してもらおうきっかけにしてもらいたいということでしょうか。

委員 魅力の発信ということで、一関に人を呼び込む視点で見ていた。一関に人を残す視点、外の人を呼び込み、かつ、中の人に留まってもらうという視点ということで理解した。

委員 9ページ「地域産業が元気なまち」の指標「納税義務者1人当たりの所得」について、平均と思われるが、もう少し金額を上げると住みやすそうと思う。観光業はポストコロナで盛り返している印象があり、農林業もがんばっていると聞いている。工業はもう少し元気になってほしく、元気になると仕事も増え、よいサイクルで回るものと感じている。

事務局 企業誘致は景気などに左右される。新規の誘致は難しい状況にあり、設備投資も視野に入れている。工業団地の整備も進めており、駅東の工場跡地も産業の場とすることを目的としている。国内に限らず台湾の誘致も進めている。

9 担当課 市長公室政策企画課